

I 2015（平成27）年度「学生による授業評価アンケート」実施報告

1. 実施目的

「学生による授業評価アンケート」は、本学の教育内容や教育方法等の課題を明確にし、質的な向上を図ることを目的に全学的規模で2008（平成20）年度から継続的に実施されている。

集計結果が出たのち、教員はそれを踏まえて自己評価をおこない、結果についての所見、改善に向けた今後の取り組みについて学生へフィードバックを行った。

2. 実施方法

1) 実施期間

前期は、2015（平成27）年7月1日(水)～7月29日(水)、後期は、2015（平成27）年12月10日(木)～2016（平成28）年1月27日(水)に実施した。ただし一部の集中科目等については、実施期間外に実施した。

2) 調査対象科目・調査対象者

調査対象科目：2015（平成27）年度に開講されている学部すべての授業科目を調査対象とした。
（一部の学外実習科目等を除く）

調査対象者：全学部の学生

3) 実施科目数・回収率

開講所属ごとの実施科目数、回収率は以下のとおりである。

学部・学科名等	開講科目数 (a)	授業評価アンケート実施数 (b)	実施率	授業評価アンケート実施科目回収状況		
				履修者数	回収数	回収率
共通教育科目	226	223	98.7 %	7,206	5,609	77.8 %
資格関係	51	48	94.1 %	938	775	82.6 %
英語英文学科専門教育科目	218	209	95.9 %	4,731	3,639	76.9 %
人間文化学科専門教育科目	120	116	96.7 %	1,974	1,541	78.1 %
人間文化学部共通科目	4	4	100.0 %	52	47	90.4 %
生活福祉文化学部専門教育科目	208	200	96.2 %	3,926	3,337	85.0 %
心理学部専門教育科目	147	137	93.2 %	5,563	4,362	78.4 %
計	974	937	96.2 %	24,390	19,310*	79.2 %

*回収数計には、「卒業研究」の回収数のうち学部学科が不明の6件を含まない。

4) 調査内容

最初に、回答者の属性（学年・所属学部（学科））を尋ね、次に当該科目に関して「授業の状況」「学習の状況」「学習成果（社会人基礎力）」「授業形態項目」「独自設定項目」について尋ねた。設問数は、選択式 19 問 自由記述 2 問である。

「授業形態項目」は、授業形態（講義、演習、実習、卒業研究）によって設問が異なる。調査項目は、2014（平成 26）年度と同様である。

調査項目の一覧は以下のとおりである。

当該科目に関する調査項目と回答形式

(1) 調査項目

授業の状況

- (1) 授業はシラバス（目標・内容・方法など）に沿った内容であった
- (2) 授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は適切であった
- (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた
- (4) 教員の話し方は、わかりやすかった
- (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた
- (6) 授業は興味関心の持てる内容であった
- (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった

学習の状況

- (8) 授業の内容は理解できた
- (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった
- (10) この科目について授業以外 1 週間あたり、どのくらい学習しましたか
〔5(2 時間以上)、4(1~2 時間未満)、3(30 分~1 時間未満)、2(30 分未満)、1(0 時間)〕

学習成果（社会人基礎力）

- (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した
- (12) この授業で、「共生・協働する力」が向上した
- (13) この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した
- (14) この授業で、「創造・発信する力」が向上した
- (15) この授業で、「思考・解決する力」が向上した
- (16) この授業で、「主体的に行動する力」が向上した

授業形態項目（講義）

- (17) 教員は、私語の注意など受講マナーを守らせるよう配慮していた
- (18) 黒板の字や視聴覚教材（パワーポイントなど）は見やすかった
- (19) 授業の進むペースは適切であった

授業形態項目（演習）

- (17) 発表や課題提出に対して教員から適切なフィードバックがあった
- (18) 教員とコミュニケーションがとれた
- (19) 授業中に質問や発言を積極的にした

授業形態項目（実習）

- (17) 実習はやりがいがあった
- (18) 授業中に質問や発言を積極的にした

(19) TA などのサポートが役に立った

授業形態項目（卒業研究）

(17) 卒業研究の作成過程・出来栄えに満足している

(18) 指導教員から適切な指導を受けた

(19) 卒業研究作成の過程で、多くの学びがあった

独自設定項目

(20) 担当教員が、独自に設定した項目

自由記述

- ・この科目（授業）について「よかった点」を記入してください。
- ・この科目（授業）について「改善すべき点」を記入してください。

(2) 回答形式

調査項目(1)～(20)については、以下の6件法で回答させた（調査項目（10）を除く）。

- 5：そう思う
- 4：どちらかと言えばそう思う
- 3：どちらとも言えない
- 2：どちらかと言えばそう思わない
- 1：そう思わない
- 0：該当しない

5) 実施手順

授業評価アンケートの調査票は、学事課より教員に配付した。各科目の担当教員は、学生に対しアンケートの主旨等を説明した上で調査票を配付した。回答済みの調査票は、担当教員に指名された学生の代表が回収し、学事課へ提出した。

例外的な取り扱いをした科目は以下のとおり。

- ・ 個別指導の授業「Advanced English」は、英語英文学科公開講座（7月1日）の際に研究・情報推進課の職員が調査票を受講学生に配付し、回収した。
- ・ オンライン指導の授業「Reading Lab III」「Writing Lab III」は、履修学生が研究・情報推進課事務室において調査票に回答した。
- ・ オンライン指導の授業「Reading Lab IV」「Writing Lab IV」は、履修する2年次生の別の必修授業にて、研究・情報推進課の職員が調査票を学生に配付し、個々の学生が学事課に提出した。
- ・ 「ノートルダム学Ⅲ」と「卒業研究」は、「ノートルダム学Ⅲ」の授業の際（12月11日、12月18日）に、学事課および研究・情報推進課の職員が調査票を学生に配付し、回収した。

6) 結果の集計

調査票の印刷・封入作業および集計処理は、株式会社教育ソフトウェアに依頼した。

7) 集計結果の教員への通知

科目別集計結果は、前期実施分は2015（平成27）年9月中旬に担当教員に配付した。後期実施分は、専任教員には2016（平成28）年3月9日開催の全学FD教員研修会において配付し、非常勤講師には同日発送の郵便にて送付した。

8) 集計結果の学内への公表

全学部授業のアンケート集計結果（自由記述を除く）は、2015（平成 27）年度前期分より、学事課および研究・情報推進課にて教職員および学生の閲覧に付した。また、2015（平成 27）年度後期分からは、全学部授業のアンケート集計結果（自由記述を除く）を学内限定 Web に掲載した。

なお、集計結果を受けた教員によるフィードバックの内容は、2013（平成 25）年度より学内限定 Web にて公開している。